

医療系大学生における、担当教員の妊娠による変化に対する気づきと パーソナリティ特性の関係

日野ころろ¹⁾ 有働幸紘²⁾ 河合裕子³⁾ 有馬義貴¹⁾

1) 健康鍼灸学科 2) 藤田医科大学病院 麻酔科・ペインクリニック外来

3) 明治国際医療大学 医療情報学ユニット

Relationship Between Awareness of a Teacher's Physiological Changes due to Pregnancy and Personality Traits in Acupuncture College Students

Kokoro HINO, Yukihiro UDO, Yuko KAWAI and Yoshitaka ARIMA

要 旨

【目的】将来鍼灸師を志している学生の「気付くこと」と「性格特性」の関係を検討するために、日常的に接している担当教員の妊娠による変化を取り上げ、質問票による調査を行った。また性格特性の点数を過去の報告と比較した。【対象】常葉大学健康プロデュース学部健康鍼灸学科に在籍している1～4回生の学生全員とした。【方法】妊娠の変化に気が付いたかどうかについての質問は、独自に作成した質問票を用いた。パーソナリティ特性については、日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) を用いた。【結果】アンケートは70名(女性29名(41.4%)), 平均年齢±標準偏差: 20.8±3.7歳)が解析対象となった。対象者全体の TIPI-J の各項目の点数を男女間で比較した結果、いずれの項目にも有意差はなかった(外向性 $p=0.53$, 協調性 $p=0.50$, 勤勉性 $p=0.20$, 神経症傾向 $p=0.53$, 開放性 $p=0.88$)。対象者のうち、アンケート調査時点で担当教員の妊娠に自分で気が付いた群27名とそれ以外の群43名について比較した。その結果、男女比($p=0.33$)および TIPI-J のいずれの項目にも有意差は認められなかった(外向性 $p=0.68$, 協調性 $p=0.80$, 勤勉性 $p=0.62$, 神経症傾向 $p=0.24$, 開放性 $p=0.86$)。【考察と結語】担当教員の妊娠による変化に気付いたかどうかと性格特性との関係について検討した結果、気付いた学生と気付かなかった学生の間に性格特性の違いは認められず、気付くかどうかについては教員と学生の関係性など別の要因が考えられた。一般的な同年代と比較して、今回の対象である学生の性格特性に特徴がある可能性があった。今後はより学業や将来の鍼灸師像に直結した内容で検討する必要があると考えている。

キーワード: パーソナリティ特性, 気付くこと, 大学生, 鍼灸

Abstract

[Objective] In this research, we examined the relationship between the ability to notice changes in another person because of pregnancy and personality traits in acupuncture college students.

[Subjects] The participants were 70 college students who were training to be acupuncturists (29 females [41.4%], mean age [SD]= 20.8 [3.7] years old).

[Methods] We used an original questionnaire to collect data on whether the students noticed changes in their pregnant teacher. The Japanese version of the Ten-Item Personality Inventory was used to measure Big Five personality traits. We divided the students into two groups: the noticed group and the did not notice group. Fisher's exact test was used to analyze gender frequencies, and the Mann-Whitney U test was used to compare scores on the Japanese version of the Ten-Item Personality Inventory between the two groups.

[Results] Twenty-seven students noticed changes in the teacher. There was no difference in gender frequencies between the two groups ($p=0.33$). There were also no differences in Big Five personality traits (extraversion: $p=0.68$, agreeableness: $p=0.80$, conscientiousness: $p=0.62$, neuroticism: $p=0.24$, openness: $p=0.86$).

[Conclusion] There were no differences in Big Five personality traits between the noticed group and the did not notice group. We considered other factors that may have affected the students' ability to notice changes in the pregnant teacher, such as the relationship between the student and the teacher in daily life.

Keywords : personality traits, awareness, college students, acupuncture and moxibustion

1. はじめに

当学科の学生たちは鍼灸師になることを志している。鍼灸は伝統的な医学のひとつであるが、その活動分野は医療のみならず、スポーツ分野¹⁾、さらに最近では美容の分野²⁾においても注目されている。いずれの分野においても鍼灸師として活動する際、施術対象となる相手の「変化」に気付くことは施術者として必要なスキルであると考えられる。このような変化に気づくことがもともと得意な者もいれば、あまり得意ではない者もいるが、そのような違いは何からきているか知ることができれば、学生のみならず指導を行う教員にとっても有益な情報となりえる。

個人の違いを考える材料として、性格に基づいた判断が一般的に行われていると考えられる。性格については、1980年代以降「性格特性」という考え方が取られることが多くなっており、特に最近では性格を5つの要素に分けたビッグファイブ理論に基づく研究が行われてきている³⁾。ビッグファイブ理論は性格を5つの特性で評価する考え方で、5つの要素は「外向性」「協調性」「勤勉性」「神経症傾向」「開放性」である^{3,4)}。ビッグファイブ測定のための評価票はこれまでにいくつか開発されている。それらを使用して大学生を対象とした調査も行われており、女子大生の摂食行動障害には「神経症傾向」が関係している⁵⁾ことや、未成年大学生の飲酒⁶⁾や女子大生におけるサプリメントの利用行動⁷⁾とは「外向性」の因子が関係していることなどが報告されている。

今回、将来鍼灸師を志している学生の「気付くこと」と「性格特性」の関係を検討するために、日常的に接している担当教員の妊娠による変化を取り上げ、質問票による調査を行った。またその結果を過去の報告と比較することで、鍼灸師を目指している学生全体の特徴についても若干の考察を行った。

2. 方 法

2.1 対象と方法

対象は、常葉大学健康プロデュース学部健康鍼灸学科に在籍している1～4回生の学生全員とした。4回生は平成30年3月の卒業式ガイダンス時に、1～3回生は4月のガイダンス時に調査票を配布し、回答を記入後その場で回収した。

2.2 質問票

2.2.1 担当教員の妊娠についての質問

妊娠の変化に気が付いたかどうかについての質問は、独自に作成した質問票を用いた。質問項目と回答は以下の通り。

問1. A先生の妊娠に気が付きましたか？

回答 ①気が付いた ②気が付かない

問2. どのように気が付きましたか？

回答 ①自分で気づいた ②他の人に言われて気が付いた

問3. いつごろ気が付きましたか？

何月ごろ気づいたかを回答してもらい、妊娠月数に換算した。

問4. 気が付いたきっかけは何ですか？

回答 ①体型の変化 ②体調が悪い様に見えた ③その他

問5. 気が付いた時に A先生本人や周囲の友人・知人と確認の話をしましたか？

回答 ①すぐに A先生または周囲の人と話をした ②すぐに話しはしなかった

問6. 親戚や友人などの、あなたが知っている人に妊娠を経験した人はいますか？

回答 ①いる ②いない

2.2.2 パーソナリティ特性の測定

パーソナリティ特性については、Gosling ら⁸⁾によって作成され、小塩ら⁹⁾によって翻訳された日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J)を用いた。これは10項目からなる質問票であり、外向性、協調性、勤勉性、神経症傾向、開放性の5因子について2項目ずつの質問で特性を測定する尺度である。5つの因子2項目中ひとつは反転項目であり、点数を計算するときには反転処理を行う¹⁰⁾。海外の文献では各因子について2項目の合計を2で割った平均値を用いているが、日本では、川本らが年代ごとの TIPI-J の値を調べた際、平均ではなく合計で報告しており¹¹⁾、今回の検討も合計点で行った。

2.3 倫理的な配慮

対象に対して書面上ならびに口頭にて、回答を論文等に使用すること、および同意しなくても不利益は受けないことを明示した上で、書面による同意を得て調査を行った。

2.4 統計解析

各値は中央値[範囲]で表示した。統計解析には EZR¹²⁾を用いた。各群の男女の割合については Fisher の正確検定を、TIPI-J の各項目点数の比較には Mann-Whitney の U 検定を行った。有意水準は p 値 5%未満とした。

3. 結 果

3.1 対象全体

アンケートは合計81名から回収された(回収率100%)。このうち11名は TIPI-J の項目に不備があったため今回の解析からは除外し、最終的に70名(女性29名(41.4%)、

平均年齢±標準偏差：20.8±3.7 歳）が対象となった。対象者全体の TIPI-J の各項目の点数を男女別に表 1 に示した。いずれの項目においても男女間で性格特性に有意差はなかった。

表 1 男女別 TIPI-J の得点

	男性(n=41)		女性(n=29)		p値
	中央値	範囲	中央値	範囲	
外交性	7点	[3-14]	7点	[3-14]	0.53
協調性	10点	[6-14]	10点	[6-14]	0.51
勤勉性	7点	[3-12]	6点	[2-12]	0.20
神経症傾向	9点	[5-13]	9点	[4-13]	0.53
開放性	8点	[3-14]	7点	[2-13]	0.88

中央値[範囲]で示す。

男女間に有意差のある項目はなかった。

Mann-WhitneyのU検定、有意水準はp値<0.05。

3.2 担当教員の変化に気が付いたか（問 1）

対象者のうち、アンケート調査時点で担当教員の妊娠に「気が付いた」と回答したのは 54 名 (77.1%) であった。どのように気が付いたかについては（問 2）、気が付いた 54 名のうち「自分で気が付いた」のは 27 名 (50.0%)、「他の人に言われて気が付いた」のは 25 名 (46.3%)、回答なしが 2 名 (3.7%) であった。気が付いた時期については（問 3）、妊娠 5 ヶ月目 (11 名, 20.4%) と 6 ヶ月目 (18 名, 33.3%) が多かった。

自分で気づくことができる能力が今回のポイントなので、自分で気が付いた群 27 名 (38.6%) とそれ以外の群 43 名（問 2 「他の人に言われて気が付いた」 25 名と問 1 「気が付かない」 16 名）について比較した。その結果、性別 (p=0.33) および TIPI-J のいずれの項目においても有意差は認められなかった（外向性 p=0.68, 協調性 p=0.80, 勤勉性 p=0.62, 神経症傾向 p=0.24, 開放性 p=0.86）。また自分の周りに妊娠を経験した人がいるかどうか（問 6）についても、自分で気が付いた群とそれ以外の群に有意差はなかった (p=0.47)。

3.3 気が付いたきっかけ（問 4）

自分で気が付いた 27 名の気が付いたきっかけは、「体型の変化」が 24 名 (88.8%)、「体調が悪い様に見えた」が 1 名 (3.7%) で、両方と回答したのが 1 名 (3.7%)、回答なしが 1 名 (3.7%) であった。ほとんどが体型の変化と回答したため、性別ならびに TIPI-J については検討しなかった。

3.4 気が付いた後の対応（問 5）

妊娠による変化に気が付いた 54 名のうち、その後、「すぐに本人または周囲の人と話した」のは 26 名 (48.1%)、「すぐに話しはしなかった」のは 28 名 (51.9%) であった。両群の性別による有意差はなかった (p=0.59)。また、TIPI-J の得点にも有意差はなかった（外向性 p=0.09,

協調性 p=0.65, 勤勉性 p=0.20, 神経症傾向 p=0.18, 開放性 p=0.61)。

4. 考 察

4.1 妊娠に気付くことと TIPI-J の特徴について

今回の調査の結果、担当教員の妊娠による変化に気付いた学生と気付かなかった学生たちの間に性格特性における違いは認められなかった。男女による違いや周囲に妊娠を経験した人がいたかどうかについても差がなかったことから、性別および個人の経験的な面の影響もないと考えられた。気付いた時期は妊娠 6 ヶ月目が多く、気付いた理由も体型の変化がほとんどであったことから、今回の「気づき」は、当該教員の微妙な様子の変化ではなく明らかな見た目の変化に気付いたかどうかである。そこに自分で気付いたのが 27 名 (38.6%) というのが多いのか少ないのかは判断ができない。見た目で気が付くには当該教員の服装や普段の振る舞いも影響すると考えられるため、学生と教員との関係性などを含めたもっと環境的な因子の影響が強い可能性が考えられる。また、自分で気付いたまたは周りに人に教えられて気付いた後に話をしたかどうかについても、性格特性および性別による違いはなかった。この行動も周囲の環境、例えば友人同士の関係などによって影響を受けている可能性が考えられる。

4.2 TIPI-J について過去の報告との比較

TIPI-J について過去の調査では以下の様なものがある。大学生を対象とした報告では、外向性は女性が高く、開放性は男性が高かった⁹⁾。年代別の検討を行った報告で 20 代の点数は、外向性、協調性、神経症傾向は女性が高く、開放性は男性が高かった¹⁰⁾。中高年を対象に行った調査では、神経症傾向は女性が高く、開放性は男性が高かった¹³⁾。これらの報告におおよそ共通しているのは、女性は外向性および神経症傾向が、男性は開放性が高いという結果である。しかし今回の対象は男女別の値に有意差はなく、過去の報告とは異なる結果であった。この理由が、例えば神経症傾向について「男性が一般の女性並みに高い」のか反対に「女性が低い」のかということは今後の検討課題である。しかし過去の報告と違った傾向を示した点が、鍼灸師という特殊な資格を目指そうとする当学科学生の特徴であるかもしれず、そのような特徴をうまく捉えていくことができれば教育の面において学生、教員相互のメリットになると考える。過去には、理学療法士養成校の生徒に対し別のビッグファイブ評価表を用いた調査が行われており、担任が臨床実習に対して何らかの不安を感じている学生は「神経症傾向」に分類されたことが示され、このような特徴を踏まえることで援助にゆとりがもてると推測している¹⁴⁾。今回の調査は普段の生活の中で身近な人に起こりうる変化の例として、

担当教員の妊娠という特殊な事例を取り上げて調査を行った。今後は授業や試験の内容などに還元できる様な調査を行う必要があると考えている。また対象者はほぼ同じ年代であったため、今回は年齢による検討を行っていない。今後検討を行う際には、何らかの事象に影響する性格特性を明らかにするために多変量解析による解析を行う必要があると考えている。

5. おわりに

担当教員の妊娠による変化に気付いたかどうかと性格特性との関係について検討した結果、気付いた学生と気付かなかった学生の間に性格特性の違いは認められなかった。一般的な同年代と比較して、当学科の学生全体の性格特性に特徴がある可能性があり、今後はその様な点も考慮しつつ、より学業や将来の鍼灸師像に直結した内容で検討する必要がある。

文 献

- 1) 片山憲史「スポーツ鍼灸の研究と臨床への応用」『日本臨床スポーツ医学会誌』第 19 巻、第 2 号、2011 年、240-243 頁
- 2) 中村真里・塩田佐知・米山奏「美顔鍼灸の効果」『医道の日本』第 68 巻、第 8 号、2009 年、98-104 頁
- 3) 小塩真司『はじめて学ぶパーソナリティ心理学：個性をめぐる冒険』ミネルヴァ書房、2010 年、92-96 頁
- 4) 丹野義彦・坂本真士・石垣琢磨『心理学入門コース 6 臨床と性格の心理学』岩波書店、2009 年、14-27 頁
- 5) 三井知代「摂食行動障害を有する女子大学生の心理的特性：パーソナリティ特性、自尊感情、アイデンティティ達成感覚について」『心身医学』第 45 巻、第 1 号、2005 年、43-52 頁
- 6) 山本航平・佐伯和子・平野美千代「未成年大学生の飲酒と友人関係・性格特性との関連」『日本公衆衛生看護学会誌』第 5 巻、第 1 号、2016 年、29-36 頁
- 7) 佐藤陽子・千葉剛・梅垣敬三「女子大学生におけるパーソナリティ特性とサプリメント利用行動」『日本公衆衛生雑誌』第 65 巻、第 6 号、2018 年、300-307 頁
- 8) Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., Swann, W. B. Jr., "A very brief measure of the Big-Five personality domains", *Journal of Research in Personality* 37, 2003, 504-528.
- 9) 小塩真司・阿部晋吾・カトロニ ピノ「日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み」『パーソナリティ研究』第 21 巻、第 1 号、2012 年、40-52 頁
- 10) 早稲田大学パーソナリティ研究室ホームページ
<http://www.f.waseda.jp/oshio.at/>
- 11) 川本哲也・小塩真司・阿部晋吾・坪田祐基・平島太郎・伊藤大幸・谷伊織「ビッグ・ファイブ・パーソナリティ特性の年齢差と性差：大規模横断調査による検討」『発達心理学研究』第 26 巻、第 2 号、2015 年、107-122 頁
- 12) Kanda, Y., "Investigation of the freely available easy-to-use software 'EZ' for medical statistics", *Bone Marrow Transplantation* 48, 2013, 452-458.
- 13) 岩佐一・吉田祐子「中高年者における「日本語版 Ten-Item Personality Inventory」(TIPI-J)の標準値ならびに性差・年齢差の検討」『日本公衆衛生雑誌』第 65 巻、第 7 号、2018 年、356-363 頁
- 14) 堀本ゆかり・丸山仁司・黒澤和生「臨床教育に影響を与える性格特性分析：臨床実習前の課題解決に向けて」『理学療法科学』第 26 巻、第 4 号、2011 年、541-547.